

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670400013		
法人名	社会福祉法人 双葉会		
事業所名	双葉会高齢者グループホーム		
所在地	徳島県阿南市見能林町南林260-15		
自己評価作成日	平成22年9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3670400013&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の生命の安全を第一に考えて支援している。また、利用者と職員はともに、笑顔の絶えない生活を送れるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺は自然環境がよく、近くには海水浴場がある。広い敷地内では四季折々の花や果物が実るなど、利用者が散策を楽しむ恰好の散歩コースとなっている。また、事業所は、利用者を尊重して互いに共感し、認め合う関係を重視している。事業所独自の理念を、日ごろのケアに反映できるよう、定期的に勉強会を開催し、代表者や管理者、職員が参加して実践につなげている。職員は、利用者を人生の先輩として敬い、優しい笑顔で対応している。共用空間は、利用者の転倒リスクや暖を取ることに配慮するなどのさまざまな工夫をしており、家庭的で居心地のよい空間になっている。リビングでくつろぐ利用者の表情は明るく、利用者同士で仲良く談笑している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をつくりあげて実践している	利用者のありのままを尊重し、互いに共感し認め合える関係を大切にした事業所独自の理念をつくっている。定期的な勉強会や申し送り等で理念について話し合い、日ごろのケアに反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	努めている。	小学生や高校生、大学生等による餅つき大会やマンドリンクラブとの交流会、婦人会による踊りやお茶会、地域ボランティアの来訪は、利用者の楽しみになっている。また、地域交流会を開くなど、地区住民と話し合う機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の各役員を進んで引き受けている。高齢者福祉をテーマに、地域座談会を開催し、話し合いを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしている。	運営推進会議に家族や地域住民、地域包括支援センター職員が参加し、定期的開催している。議題にそった意見交換を積極的に行い、運営やサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	その様に取り組んでいる。	管理者は、市担当窓口へ出向いて、事業所の実状を伝えたり、運営に関する相談や意見交換を行って連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。施錠はしていない。	事業所は、利用者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を実施し、全職員の共通認識を図って身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修の実施や外部研修会に参加している。マニュアルを作成し周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルをもとに職員会や勉強会で学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書にもとづき十分な説明を行い、理解や納得をしていただいたうえで署名捺印をしてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映させている。	家族の来訪時や行事、運営推進会議等、利用者や家族が意向・要望を伝えやすいような雰囲気づくりに配慮している。出された意見や要望は職員間で話し合い、日ごろのケアに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	反映させている。	毎月、代表者や管理者、職員が参加する勉強会を開催し、意見交換の時間を設けて話し合っている。また、代表者は、日ごろから利用者や職員と過ごす機会が多く、職員の気づきや意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を立て外部研修会に参加したり、職場内研修会等を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特段の取り組みは行っていないが、法人内に小規模多機能型の事業所があることから、法人内部で話し合いを重ねてサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時には、利用者や家族の話をよく聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が面会に来られた際に十分な話し合いを行い、気持ちや要望を受け止められるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者の関係は、上でも下でもなく五分と五分であると考えている。日ごろから利用者と職員は、教えたり教えられたり、また助けたり助けられたりしながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との話し合いのなかで、その思いを自分のこととして受け止め、家族の代わりにできることをするという気持ちで支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援している。	職員は、利用者や家族との話し合いのなかで、本人が大切にしてきた人間関係や社会との繋がりを把握し、自宅近辺へ出向いたり、デイサービス利用の友人や知人と交流が図れるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「いつもみんな家族」をモットーにしている。利用者同士が居室で話をしたり、散歩時には車椅子を押してくれたりとお互いに助け合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今のところ対象者がいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	検討している。	サービス利用時に、本人や家族と話し合い暮らしに対する希望や意向の把握に努めている。意向の把握が困難な場合には、日ごろの表情や態度から確認するなど、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴や暮らし方、大切な経験を聞き、日ごろの支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや担当者会議を行い、家族の意見も交えて、利用者一人ひとりに合った介護計画を作成している。	アセスメントでの利用者や家族の希望、サービス担当者会議での検討内容、日ごろのかかわりの中で職員の気づき等を反映し、利用者のよりよい暮らしに向けた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録があり、その情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアハウスのカラオケクラブや童謡クラブ美容講習などへの参加の希望がある利用者は、参加して楽しんでいる。ケアハウスの友人との交流を楽しんでいる方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。2週間に1回、協力医の往診やかかりつけ医の受診の支援等を行い、そのつど、病気や健康管理に関する助言をもらっている。	協力医療機関による定期的な診療のほか、利用前からのかかりつけ医で受診できるよう支援している。職員は、通院時の方法や情報の伝達について家族と話し合い、状態に応じて適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会を欠かさず、常に医師や家族と連絡を取るよう努めている。早期退院に向けて情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望を取り入れ、かかりつけ医と話し合いを重ねて方針や情報を共有している。	重度化した場合や終末期ケアのあり方について、協力医療機関や関係者間で話し合い、本人や家族の意向にそって支援している。また、看取り指針を整備し、職員や関係者間で方針の共有に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難マニュアルを作成している。ケアハウスと連携して取り組んでいる。近隣の方には非常時に協力してもらうように連絡している。また、災害時は避難場所に事業所を使用してもらえるようにしている。	災害対策マニュアルを整備し、運営推進会議で話し合っている。定期的に避難訓練を実施している。非常時の避難場所に事業所を提供するなど、地域住民との連携が図られているが、協力体制を築くまでには至っていない。	職員だけの誘導の限界を具体的に確認し、地域住民や警察・消防署等とさらなる連携を深め、事業所の災害時対策に関する理解を求めると、緊急時における協力体制の強化に向けて取り組まれない。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアルを作成して取り扱っている。 対応できている。	職員は、利用者の人格を尊重し、ありのままを受け入れて共感し合うケアに努めている。定期的に職員勉強会を開催し、人権意識の高揚を図るなど、利用者の誇りやプライバシー確保の徹底に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりが思いや希望を表せるように支援しており、職員はそれを促すように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その様にしている。常に利用者中心に暮らしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりの個性を大切に服装や髪形に気をつけ、おしゃれを支援している。月1回、美容講習に参加し、お化粧品やマニキュアを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できている。	野菜の皮むきや配膳、下膳など、利用者のできることや得意なことを手伝ってもらい食事づくりに参加している。食事中は、和やかに会話が弾み、お茶の接待をする利用者もいて、和気あいあいとした楽しい雰囲気づくりに配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が、利用者の希望も考慮して献立を立てている。食事や水分摂取量を記録し、必要な量を一日を通して確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンチェック表を用いて、利用者一人ひとりの習慣を活かした支援を行っている。	チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。さりげない声かけや優しい態度でトイレ誘導を行い、排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックシートにより、利用者一人ひとりのパターンを把握し、身体を動かすことや飲食物の工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	くつろいで入浴ができるように支援している。入浴用の車椅子の使用や仲のいい利用者同士でゆっくりと入浴を楽しんでもらう等、希望を取り入れている。	職員は、利用者の希望に応じて入浴が楽しめるよう支援している。入浴を拒む方や体調の優れない方には、時間帯をずらして声かけをしたり清拭や足浴等を行い、状況に応じた清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。休息のため、毎日1時間ほどの睡眠を午後にとる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が本人の確認を行って服薬を配付し、飲み込むまで支援している。職員はマニュアルにより、薬の目的や副作用、用法、用量等について理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴やそれぞれの力を活かした役割分担を行ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望により、広い敷地内の好きなところへ行ったり、近隣の散歩やお花見に出かけている。	敷地内には、さまざまな草木が植えられ、利用者は楽しく散歩したり近くの浜辺へ出かけるなど思い思いに過ごしている。職員は、お墓参りや神社参拝、花見など、懐かしい場所への外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気であるように工夫している。	上履きなしで移動できるように、廊下に絨毯を敷き詰めることで、転倒リスクへの対応や暖を取ることに考慮した工夫をしている。食堂兼リビングは明るく、限られたスペースを使い勝手のよいように工夫し、家庭的な暖かい雰囲気をつくっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子やソファを置いている。また、食事のテーブルも組み合わせができるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を置いたり、仏壇を持ち込んでいる方もいる。	居室には、本人の手作りの品や孫の作品、家族の写真が飾られている。馴染みの調度品を置くなど、居心地よく暮らせる工夫をしている。非常災害時に備え、居室に手作りの防空頭巾を配備するなど、利用者が懐かしく安心して過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フロアにカーペットを敷いている。必要だと思われる場所に手すりを設置するなど、利用者一人ひとりの身体機能を生かすように工夫している。		